

平成 24 年度
当別町地域公共交通活性化協議会
実績報告書

平成 25 年 3 月

当別町地域公共交通活性化協議会

《 目 次 》

1 . 会議の開催実績	1
2 . 当別ふれあいバス運行事業の概要	2
3 . 運行データの分析	3
4 . 運行コストと運行収入	1 8
5 . 夏休み冬休み子ども定期券の販売	2 1
6 . 当別町コミュニティバス運行事業のまとめ	2 3
7 . 利用促進事業に関するまとめ	2 4
8 . 今後の課題	2 5

1. 会議の開催実績

(1) 協議会構成員

選任区分	所属・役職	氏名
当別町長が指名する者	当別町 副町長	近藤 充徳
	当別町 福祉部長	高橋 通
	当別町教育委員会事務局 教育部長	小山 久夫
北海道運輸局札幌運輸支局長が指名する者	北海道運輸局札幌運輸支局 首席運輸企画専門官	工藤 正弘
北海道石狩支庁長が指名する者	北海道石狩支庁地域振興部 地域政策課長	田辺 きよみ
札幌地区バス協会の代表	社団法人北海道バス協会 常務理事	日野 健一
関係する道路管理者	札幌開発建設部札幌道路事務所 計画課長	佐々木 克典
	空知総合振興局 札幌建設管理部 当別出張所長	渡辺 昭寿
	当別町 建設水道部長	堤 和弘
関係する鉄道事業者	J R 石狩当別駅長	羽賀 雅史
当別町コミュニティバス実証運行事業 参加事業者の代表	北海道医療大学 経営企画部総務企画課長	三浦 清志
	スウェーデンハウス株式会社 スウェーデンヒルズ管理センター長	平 健生
	有限会社下段モータース 代表取締役	下段 寿之
一般貸切旅客自動車運送事業者の代表	山内建材工業株式会社 代表取締役	山内 孝司
一般乗合旅客自動車運送事業者の事業用運転手が所属する団体等の代表	有限会社下段モータース	加藤 啓一
地域住民及び団体の代表	当別町行政推進員連絡協議会 会長	山下 義則
	当別町 P T A 連合会 会長	鈴木 信行
	当別町高齢者クラブ連合会 副会長	菊池 久
	当別町女性団体連絡協議会 理事	宮尾 道子
	当別町ボランティア連絡協議会 会長	大口 弘美
	当別町商工会 事務局長	土肥 繁義
	当別町社会福祉協議会 主任	藤原 徹

表 1-1 当別町地域公共交通活性化協議会委員名簿（平成 25 年 3 月 31 日現在）

(2) 会議の内容

平成 24 年度は 3 回の協議会を開催した。協議会では、地域公共交通総合連携計画に基づき策定された平成 24 年度計画事業の議論や進捗報告と、平成 24 年度事業計画及び予算の策定を行った。

また、10 月 27 日の J R 学園都市線ダイヤ改正に合わせ、あいの里金沢線のダイヤ改正及び路線の変更や青山線・みどり野線の統合についての協議も、本協議会で行った。

回	開催日時	主な協議内容
第 1 回	平成 24 年 6 月 27 日	<ul style="list-style-type: none"> 平成 23 年度当別町地域公共交通活性化協議会事業実績について 平成 23 年度当別町地域公共交通活性化協議会決算及び監査報告について 平成 23・24 年度地域公共交通確保維持改善事業に関する事業評価について 平成 24 年度予算の変更について 平成 24 年度地域内フィーダー計画の変更について 平成 25 年度地域内フィーダー計画の策定について
第 2 回	平成 24 年 9 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> 当別ふれあいバス平成 24 年度 8 月までの実績について 「環境まちづくりパートナーズ基本協定」の更新について バスまつりの実施について 10 月 27 日ダイヤ改正及び路線の変更について 平成 25 年度地域内フィーダー計画等の変更について 平成 24 年度予算の変更について
第 3 回	平成 25 年 2 月 20 日	<ul style="list-style-type: none"> 当別ふれあいバス平成 24 年度 1 月までの実績について 平成 24 年度当別町地域公共交通活性化協議会予算執行状況について 平成 24 年度利用促進事業の実施結果について 平成 25 年 4 月 1 日ダイヤ改正（案）について 平成 25 年度当別町地域公共交通活性化協議会事業計画・予算（案）について 平成 25 年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（案）について

表 1-2 会議開催内容

2. 当別ふれあいバス運行事業の概要

(1) 運行の概要

これまで実施した過去5年間の実証運行実績を基に収支バランスがとれる運行体制とした。平成23年4月から本格運行を開始した。平成24年10月27日のJR学園都市線のダイヤ改正にあわせ、ふれあいバスのダイヤ改正を行った。これに伴い、バス4台の運行から5台の運行へと改めた。

	一般	中学生・高校生	小学生・障がい者・介護人
運賃（一般路線）	200円		100円
回数券	2,000円（12枚綴り）		2,000円（24枚綴り）
応援券（1か月）	4,000円	2,000円	
（3か月）	10,000円	5,000円	
（6か月）	16,000円	8,000円	
夏休み冬休み子ども定期券	小学生500円、中学生1,000円		

表2-1 利用料金一覧

系統名	運行系統	系統 キロ	運行回数		備考
			往	復	
市街地循環線 （昇順コース）	J R 石狩当別駅南口～栄町 ～当別駅南口～春日町～当別駅南口	11.9 km	6便		循環 土日祝 運休
市街地循環線 （降順コース）	J R 石狩当別駅南口～春日町 ～当別駅南口～栄町～当別駅南口	12.0 km	6便		循環 土日祝 運休
西当別線	J R 石狩当別駅南口～ロイズふとみ工場	12.0 km	5回	6回	
西当別金沢線	北海道医療大学～ロイズふとみ工場	16.0km	3回	2回	土日祝 運休
あいの里金沢線	北海道医療大学 ～医療大学あいの里キャンパス	22.1 km	9回	9回	
金沢線	J R 石狩当別駅南口～北海道医療大学	4.0 km	2回	2回	土日祝 運休
青山線	J R 石狩当別駅南口～青山会館	15.5 km	8回	8回	

表2-2 運行路線一覧（平成24年10月27日改正）

3. 運行データの分析

(1) 全体利用者数の推移

総利用者数は131,043人と昨年を約4,700人下回った。

ロイズふとみ工場からの乗込みが前年より半減している。

9月・10月の利用者が多くなっているのは、無料キャンペーンによるものと考えられる。

北海道医療大学が長期休暇に入る8月及び3月は利用者が減少している。

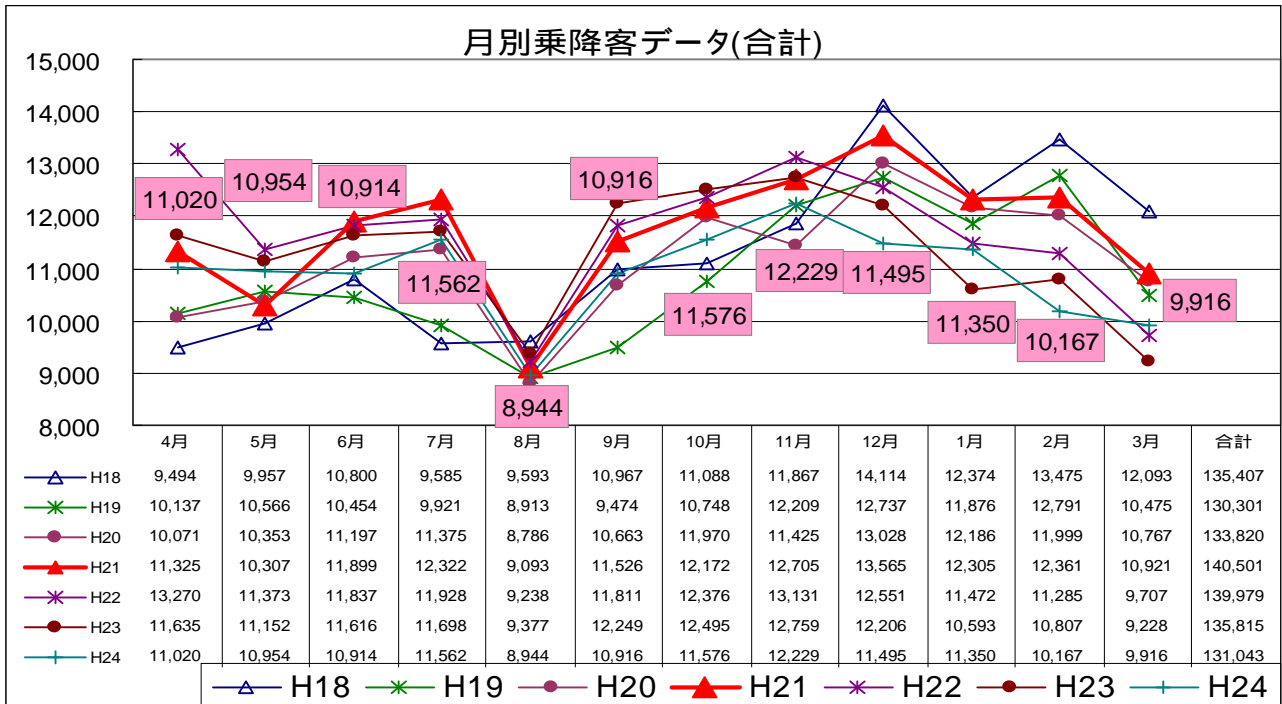


図 3-1 月別利用者推移

	平 日					新西当別線	新金沢線	新あいの里金沢線		新西当別金沢線		新青山線	旧西当別線	旧金沢線
	循環(昇順)	循環(降順)	(西当別+あいの里)	(金沢分)	(青山分)			あいの里分	金沢分	西当別分	金沢分			
4月	162人	189人	4,389人	4,693人	803人								1,714人	2,979人
5月	147人	159人	4,299人	4,773人	831人								1,574人	2,942人
6月	140人	156人	4,466人	4,469人	893人								1,614人	2,769人
7月	139人	132人	4,628人	4,968人	854人								1,595人	3,068人
8月	177人	180人	4,609人	2,570人	784人								1,583人	1,476人
9月	149人	133人	4,382人	4,751人	674人								1,500人	2,955人
計	914人	949人	26,793人	26,244人	4,839人								9,580人	16,189人
平均	7.3人/日	7.5人/日	212.6人/日	208.3人/日	38.4人/日								76.0人/日	128.5人/日
本数	6便/日	6便/日	28便/日	24便/日	16便/日								12便/日	10便/日
平均	1.2人/便	1.3人/便	7.6人/便	8.7人/便	2.4人/便								6.3人/便	12.8人/便
10/26	124人	151人	4,048人	4,542人	666人								1,451人	2,770人
10/27	23人	15人	586人	651人	113人	146人	28人	688人	411人	277人	375人	29人	346人	113人
10月計	147人	166人	4,634人	5,193人	779人	146人	28人	688人	411人	277人	375人	29人	346人	113人
11月	258人	185人	4,796人	5,382人	873人	1,182人	350人	5,769人	3,292人	2,477人	2,877人	322人	2,555人	873人
12月	273人	217人	4,984人	3,915人	856人	1,155人	372人	5,601人	3,567人	2,034人	1,771人	262人	1,509人	856人
1月	233人	159人	5,082人	4,115人	777人	1,139人	242人	5,794人	3,603人	2,191人	2,022人	340人	1,682人	777人
2月	232人	195人	4,748人	3,241人	847人	1,130人	252人	5,101人	3,398人	1,703人	1,506人	220人	1,286人	847人
3月	270人	214人	5,429人	1,931人	914人	1,296人	142人	5,073人	3,913人	1,160人	849人	220人	629人	914人
計	1,413人	1,136人	29,673人	23,777人	5,046人	6,048人	1,386人	28,026人	18,184人	9,842人	9,400人	1,393人	8,007人	4,380人
平均	11.8人/日	9.5人/日	247.3人/日	198.1人/日	42.1人/日	59.9人/日	13.7人/日	277.5人/日	180.0人/日	97.4人/日	93.1人/日	13.8人/日	79.3人/日	43.4人/日
本数	6便/日	6便/日	33便/日	24便/日	16便/日	11便/日	4便/日	18便/日	18便/日	15便/日	5便/日	5便/日	5便/日	16便/日
平均	2.0人/便	1.6人/便	7.5人/便	8.3人/便	2.6人/便	5.4人/便	3.4人/便	15.4人/便	10.0人/便	6.5人/便	18.6人/便	2.8人/便	15.9人/便	2.7人/便
合計	2,327人	2,085人	56,466人	50,021人	9,885人	6,048人	1,386人	28,026人	18,184人	9,842人	9,400人	1,393人	8,007人	4,380人
平均	9.5人/日	8.5人/日	229.5人/日	203.3人/日	40.2人/日	59.9人/日	13.7人/日	277.5人/日	180.0人/日	97.4人/日	93.1人/日	13.8人/日	79.3人/日	43.4人/日
本数	6便/日	6便/日	30便/日	24便/日	16便/日	11便/日	4便/日	18便/日	18便/日	15便/日	5便/日	5便/日	5便/日	16便/日
平均	1.6人/便	1.4人/便	7.7人/便	8.5人/便	2.5人/便	5.4人/便	3.4人/便	15.4人/便	10.0人/便	6.5人/便	18.6人/便	2.8人/便	15.9人/便	2.7人/便

	土曜・日曜・祝日													合計				
	旧あいの里金沢線		旧みどり野線	旧青山線	小計	運行日数	(西当別+あいの里)	新あいの里金沢線		旧西当別線	青山線	小計	運行日数	乗降者数	運行日数			
	あいの里分	金沢分					あいの里分	西当別分										
4月	4,389人	2,675人	1,714人	147人	656人	10,236人	20日	651人					651人	133人	784人	10日	11,020人	30日
5月	4,556人	2,725人	1,831人	125人	706人	10,209人	21日	637人					637人	108人	745人	10日	10,954人	31日
6月	4,592人	2,872人	1,720人	160人	733人	10,164人	21日	646人					646人	104人	750人	9日	10,914人	30日
7月	4,933人	3,033人	1,900人	152人	702人	10,721人	21日	739人					739人	102人	841人	10日	11,562人	31日
8月	4,120人	3,026人	1,094人	134人	650人	8,320人	23日	528人					528人	96人	624人	8日	8,944人	31日
9月	4,678人	2,882人	1,796人	96人	578人	10,089人	20日	711人					711人	116人	827人	10日	10,916人	30日
計	27,268人	17,213人	10,055人	814人	4,025人	59,739人	126日	3,912人					3,912人	659人	4,571人	57日	64,310人	183日
平均	216.4人/日	136.6人/日	79.8人/日	6.5人/日	31.9人/日	474.1人/日	-						68.6人/日	11.6人/日	80.2人/日	-	351.4人/日	-
本数	16便/日	16便/日	14便/日	4便/日	12便/日	66便/日	-						22便/日	6便/日	28便/日	-	-	-
平均	13.5人/便	8.5人/便	5.7人/便	1.6人/便	2.7人/便	7.2人/便	-						3.1人/便	1.9人/便	2.9人/便	-	-	-
10/26	4,369人	2,597人	1,772人	89人	577人	9,531人	19日	452人					452人	74人	526人	7日	10,057人	26日
10/27						1,388人	3日	115人	115人	45人	70人		16人	131人	2日	1,519人	5日	
10月計	4,369人	2,597人	1,772人	89人	577人	10,919人	22日	567人	115人	45人	70人	452人	90人	657人	9日	11,576人	31日	
11月						11,494人	21日	645人	645人	280人	365人		90人	735人	9日	12,229人	30日	
12月						10,245人	19日	1,094人	1,094人	492人	602人		156人	1,250人	12日	11,495人	31日	
1月						10,366人	19日	870人	870人	304人	566人		114人	984人	11日	11,350人	30日	
2月						9,263人	19日	765人	765人	281人	484人		139人	904人	9日	10,167人	28日	
3月						8,758人	20日	1,008人	1,008人	448人	560人		150人	1,158人	11日	9,916人	31日	
計	4,369人	2,597人	1,772人	89人	577人	61,045人	120日	4,949人	4,497人	1,850人	2,647人	452人	739人	5,688人	61日	66,733人	181日	
平均	229.9人/日	136.7人/日	93.3人/日	4.7人/日	30.4人/日	508.7人/日	-	81.1人/日	83.3人/日	34.3人/日	49.0人/日	64.6人/日	12.1人/日	93.2人/日	-	368.7人/日	-	
本数	16便/日	16便/日	14便/日	4便/日	12便/日	66便/日	-	22便/日	22便/日	6便/日	16便/日	22便/日	6便/日	28便/日	-	-	-	
平均	14.4人/便	8.5人/便	6.7人/便	1.2人/便	2.5人/便	7.7人/便	-	3.7人/便	3.8人/便	5.7人/便	3.1人/便	2.9人/便	2.0人/便	3.3人/便	-	-	-	
合計	31,637人	19,810人	11,827人	903人	4,602人	120,784人	246日	8,861人	4,497人	1,850人	2,647人	4,364人	1,398人	10,259人	118日	131,043人	364日	
平均	218.2人/日	136.6人/日	81.6人/日	6.2人/日	31.7人/日	491.0人/日	-	75.1人/日	83.3人/日	34.3人/日	49.0人/日	68.2人/日	11.8人/日	86.9人/日	-	360.0人/日	-	
本数	16便/日	16便/日	14便/日	4便/日	12便/日	66便/日	-	22便/日	22便/日	6便/日	16便/日	22便/日	6便/日	28便/日	-	-	-	
平均	13.6人/便	8.5人/便	5.8人/便	1.6人/便	2.6人/便	7.4人/便	-	3.4人/便	3.8人/便	5.7人/便	3.1人/便	3.1人/便	2.0人/便	3.3人/便	-	-	-	

表 3-1 月別利用者数一覧

(2) 平成24年度当別ふれあいバス事業の大雪等による運休・遅延等報告

大雪の影響により各路線において、運休や遅延が発生し、運行に大きな影響を与えた。
運行日別状況

月日		市街地循環線	青山線	あいの里金沢線	合計
12月26日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	0	0
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	1 (15分)	5 (90分)	6
12月27日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	5 (5)	5 (5)
	遅延便数 (最大遅延時間)	2 (30分)	0	3 (35分)	5
1月3日	運休便数 (うち部分運休)	0	4	0	4
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	1 (65分)	2 (45分)	3
1月10日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	7 (7)	7 (7)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
2月21日	運休便数 (うち部分運休)	12	11 (5)	21 (17)	44 (22)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
3月9日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	6 (6)	6 (6)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	0	0
3月14日	運休便数 (うち部分運休)	0	0	18 (18)	18 (18)
	遅延便数 (最大遅延時間)	0	0	2 (62分)	2
合計	運休便数 (うち部分運休)	12	15 (5)	57 (53)	84 (58)
	遅延便数 (最大遅延時間)	2 (30分)	2 (65分)	12 (90分)	16

表3-2 運休・遅延一覧

(3) 市街地循環線の推移

平成24年度の乗降客数は4月が去年より少し増えたものの、それ以降は全て昨年を下回り9月には200人以上の落ち込みとなった。また、年合計だと約800人の落ち込みとなった。特に昇順の便と便、降順の便と便が100人程度落ち込んでいる。

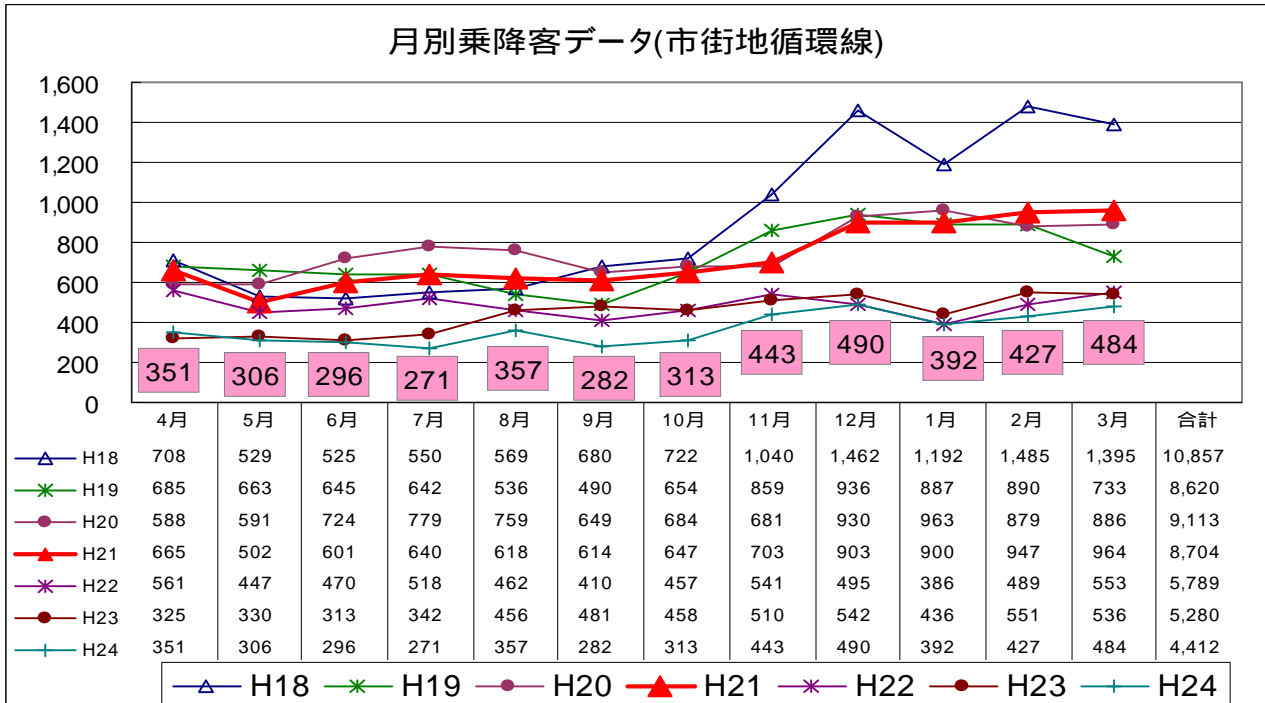
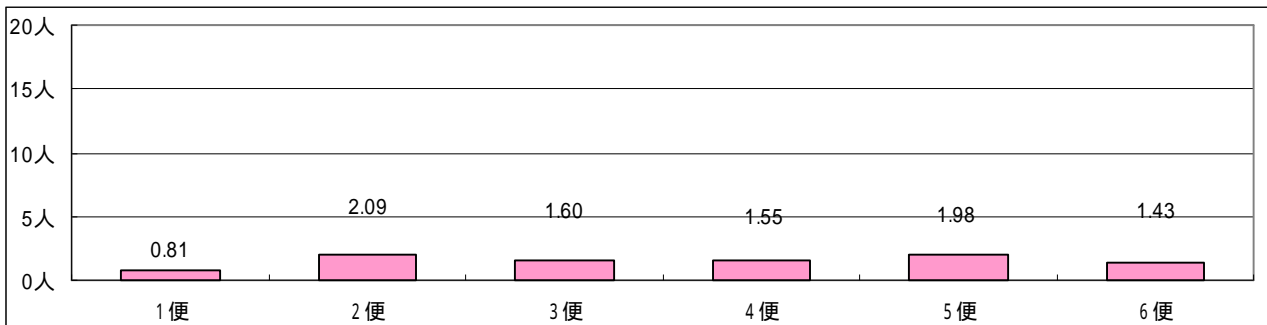
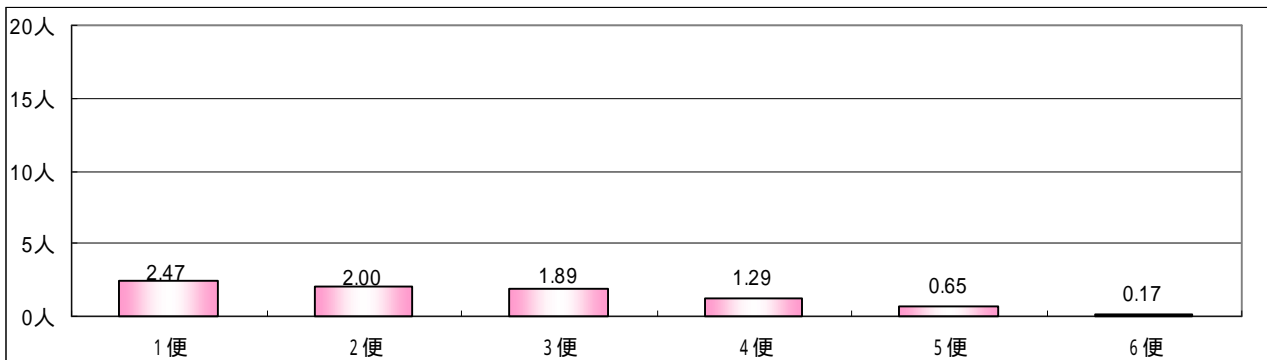


図3-2 月別利用者推移

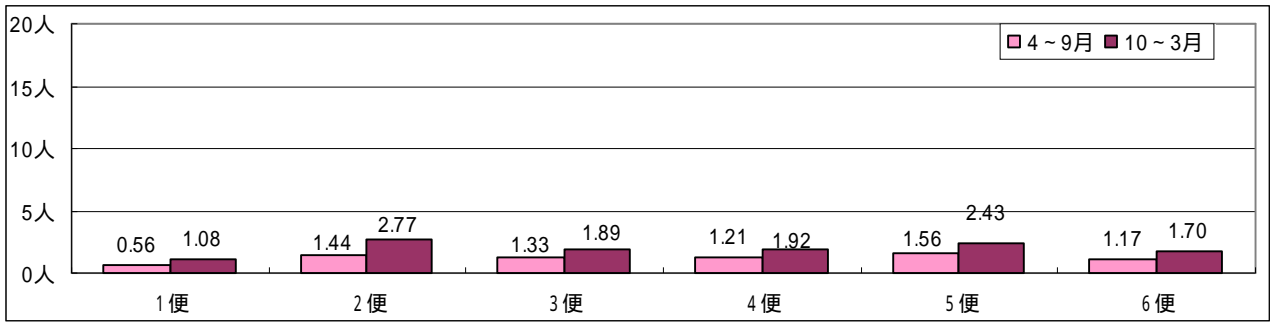


昇順

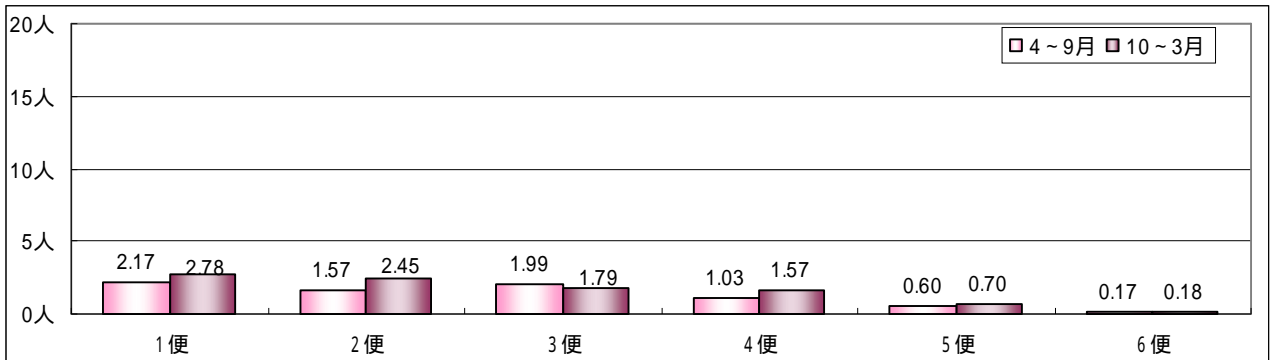


降順

図3-3 市街地循環線1便当たり平均利用者数

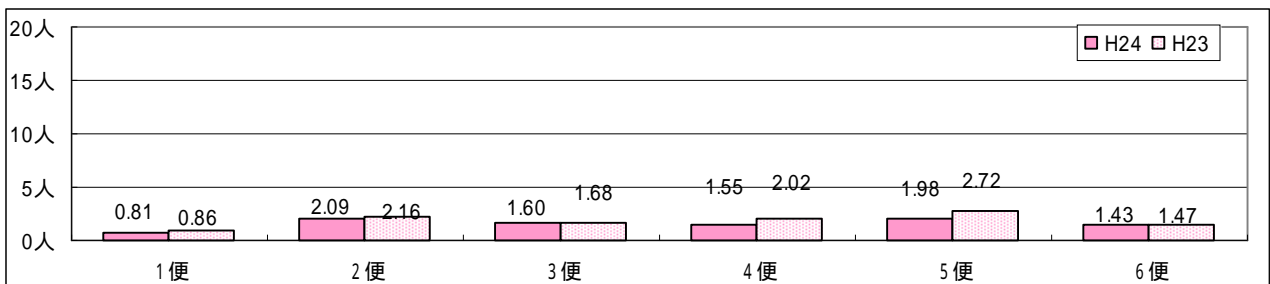


昇順

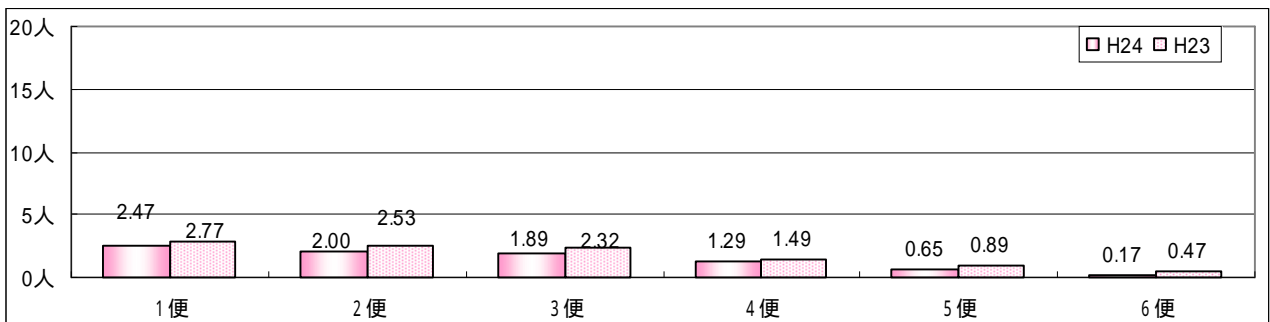


降順

図 3-4 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）



昇順



降順

図 3-5 市街地循環線 1 便当たり平均利用者数（H24 と H23 の比較）

(4) あいの里金沢線(旧金沢線)の推移

昨年より利用者数は減ったものの過去2番目の乗降客数を記録した。

学生の利用が多いため長期休暇に入る8月、3月の利用者が顕著に少ない。

北海道医療大学行の第1便は歯科内科クリニックの受付時間と大学講義1講目の時間に合わせているため、利用者はどの便よりも多い。

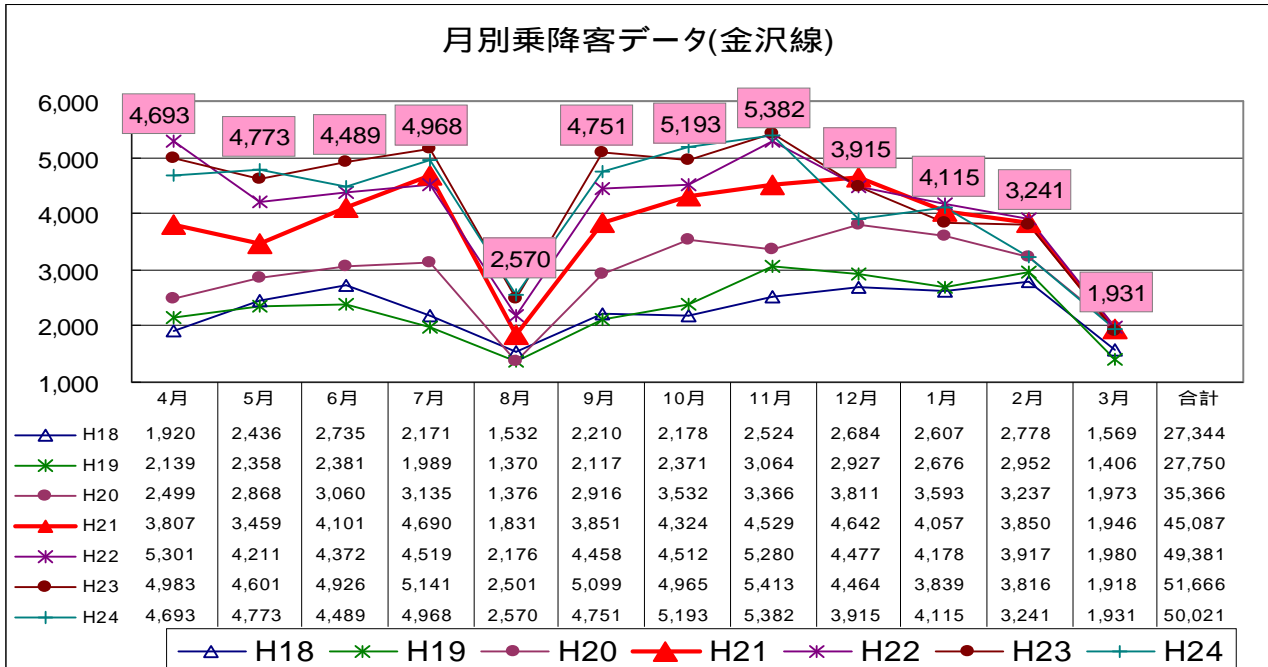
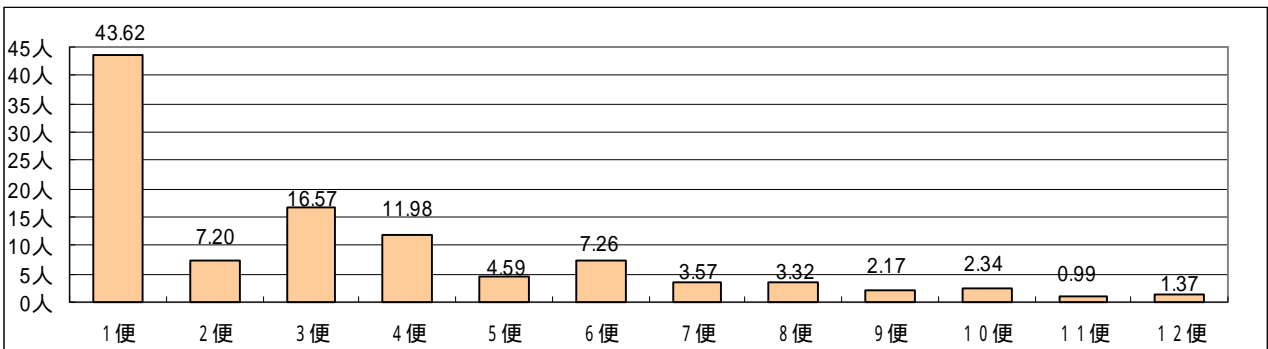
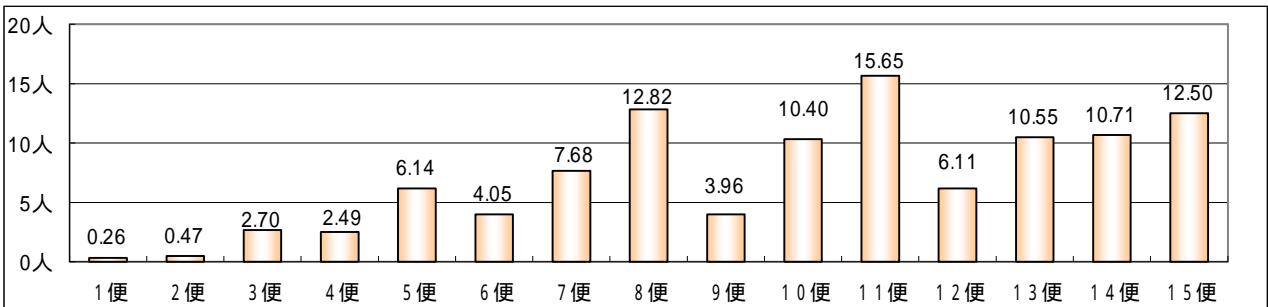


図 3-6 月別利用者推移

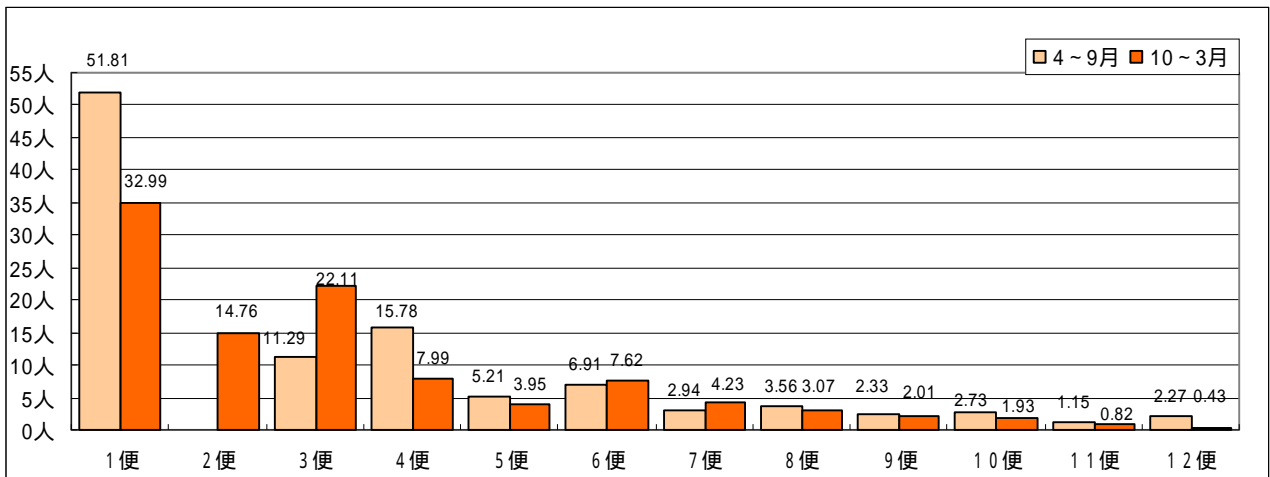


北海道医療大学行

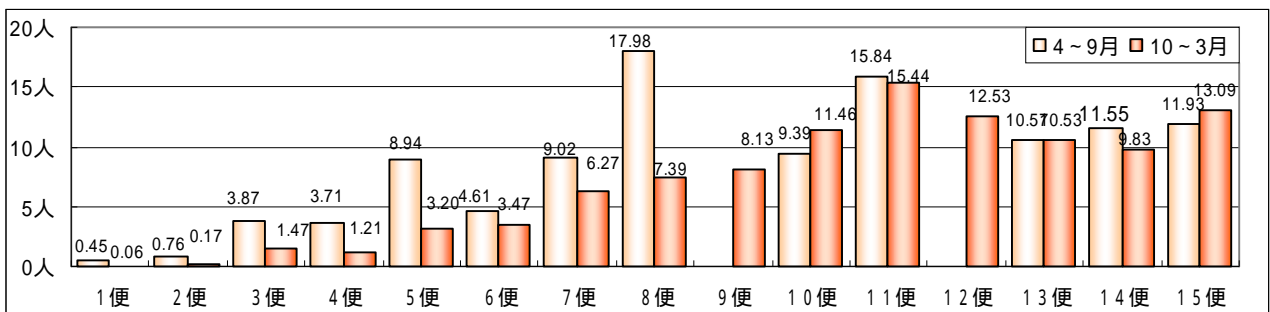


J R 当別駅南口行

図 3-7 1 便当たり平均利用者数

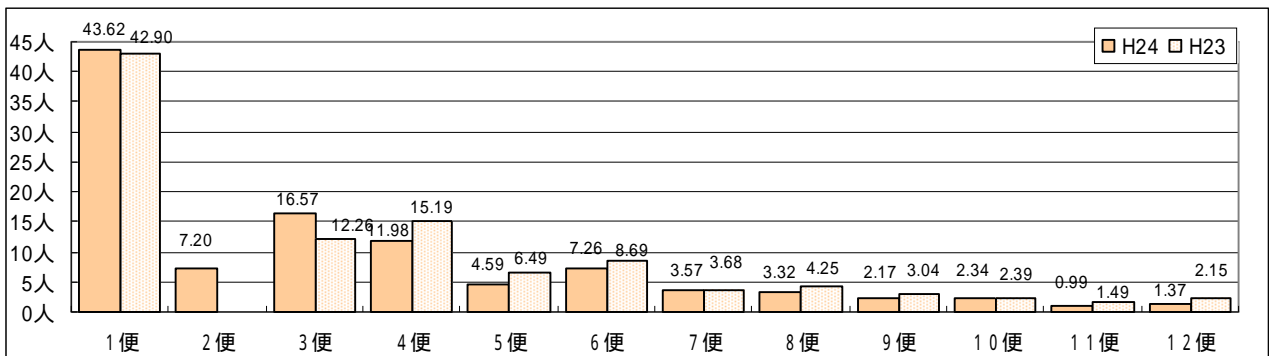


北海道医療大学行

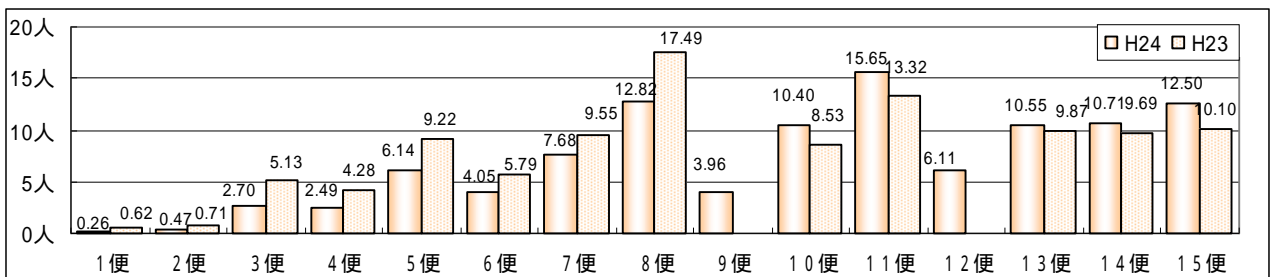


J R当別駅南口行

図 3-8 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）



北海道医療大学行



J R当別駅南口行

図 3-9 1 便当たり平均利用者数（H24 と H23 の比較）

(5) あいの里金沢線(旧西当別・あいの里線)の推移

平成24年度は昨年の利用者数を下回り、過去最低の利用者数となった。平日利用者の減少が顕著であることから、通勤・通学者の利用が減少していると考えられる。また、冬季の大雪による影響でダイヤが乱れがあったものの、2月の乗降客は去年とほぼ同様に推移し、1月と3月は大幅に利用者が増加している。

平日の太美駅・ロイズ・あいの里キャンパス行のうち、第1便の利用が多いのは、通勤通学者が多く、太美駅及びあいの里教育大駅まで利用するためと考えられる。

同第4便が多いのは、あいの里キャンパスまで行く最初の便のため、通学・通院利用者が多いと考えられる。

当別駅南口行き2便が多いのは、金沢線へ乗り継ぎし北海道医療大学行1便に乗車する通学・通院者が多いためと考えられる。

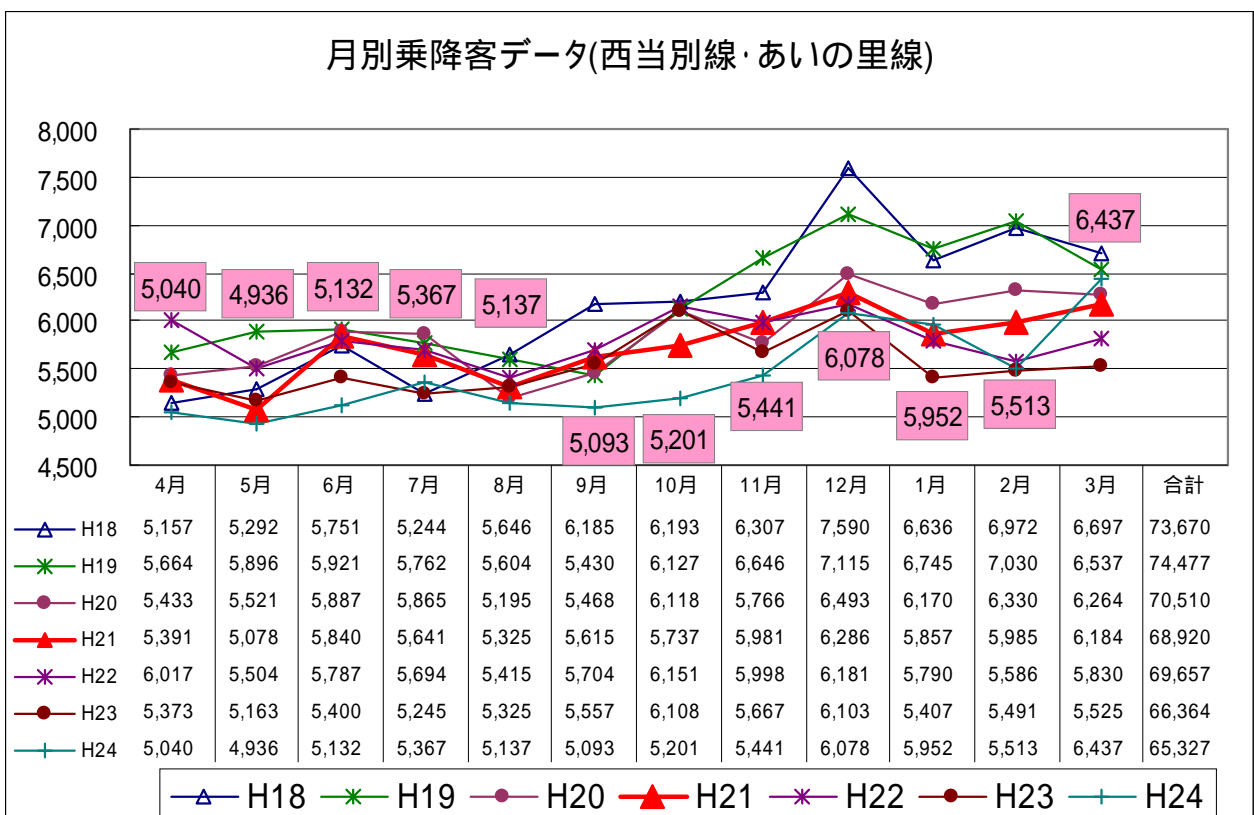
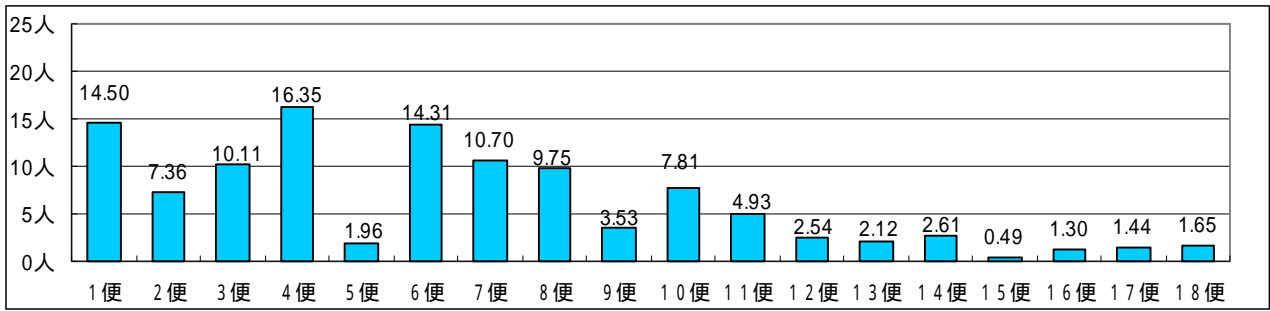
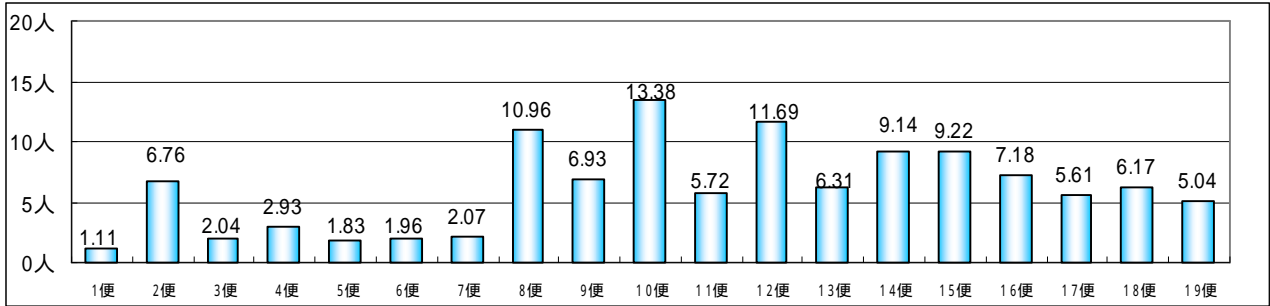


図3-10 月別利用者推移

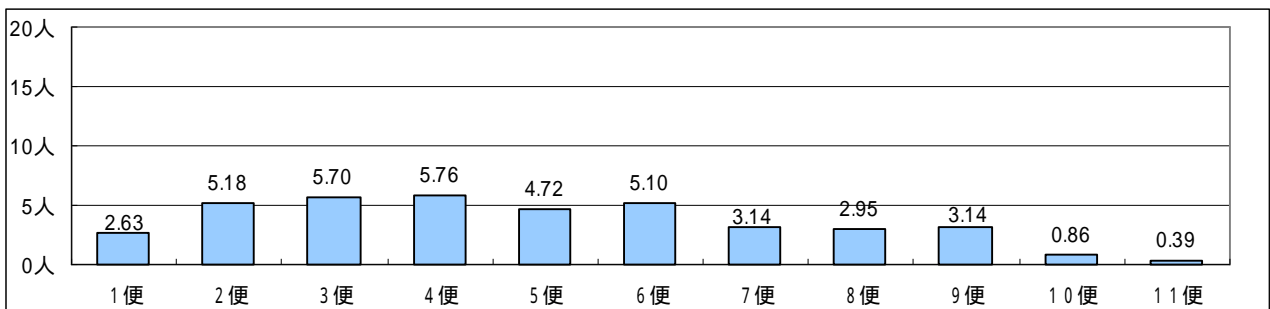


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

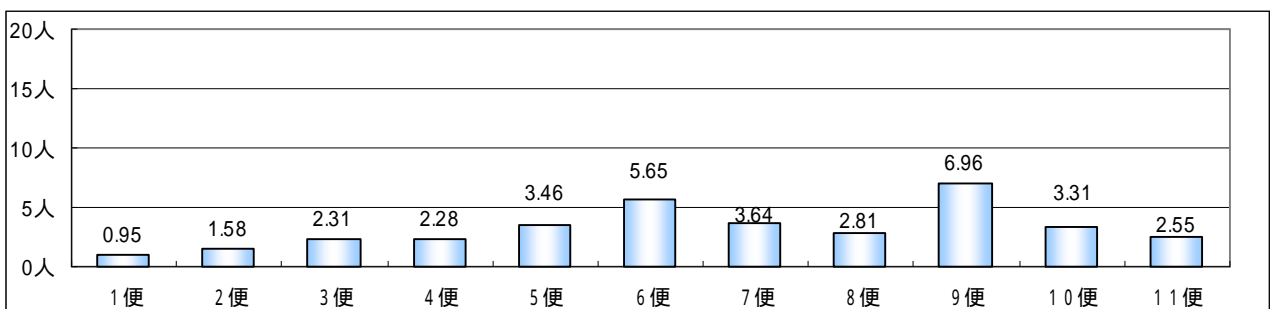


J R当別駅南口行

図 3-11 平日 1 便当たり平均利用者数

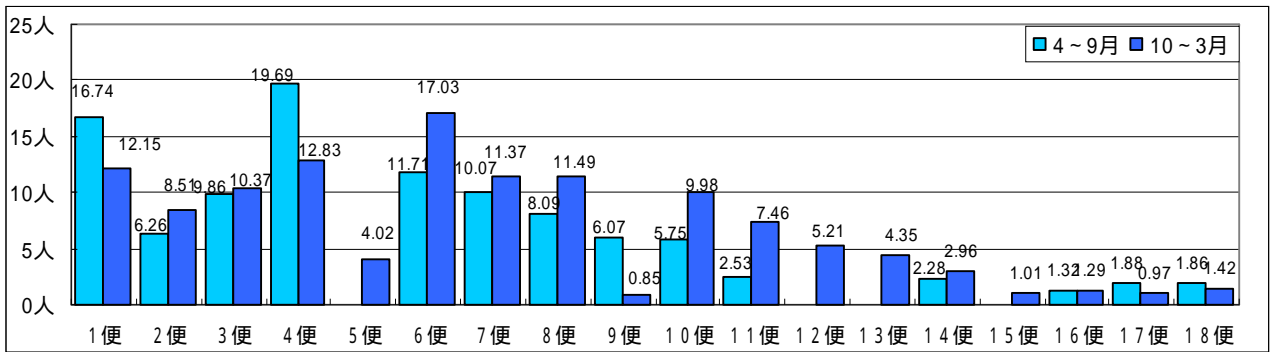


J R太美駅、ロイズふとみ工場行

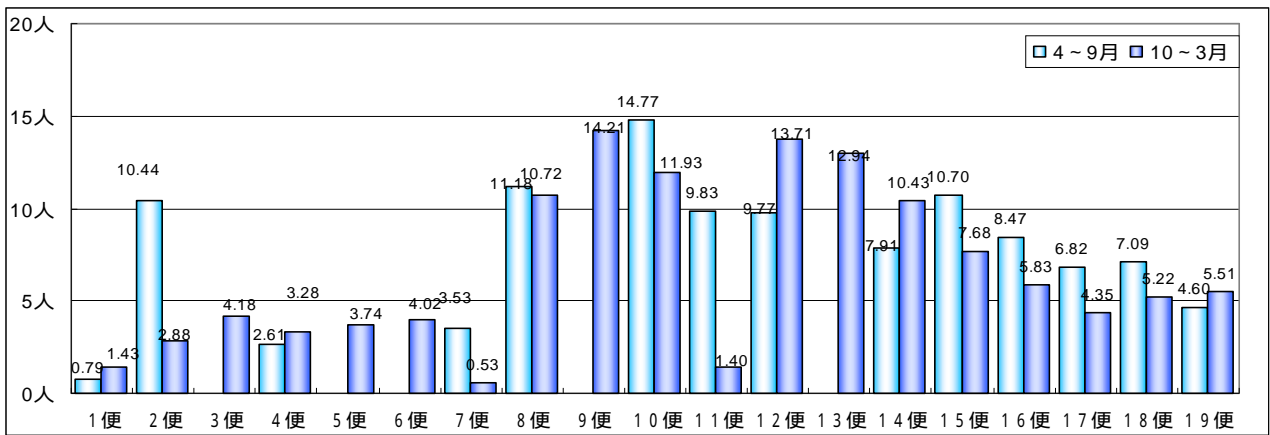


J R当別駅南口行

図 3-12 土日祝日 1 便当たり平均利用者数

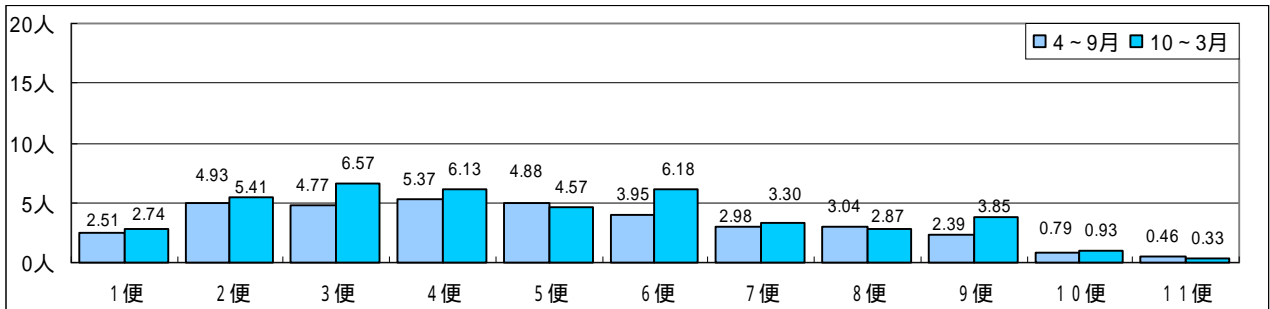


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

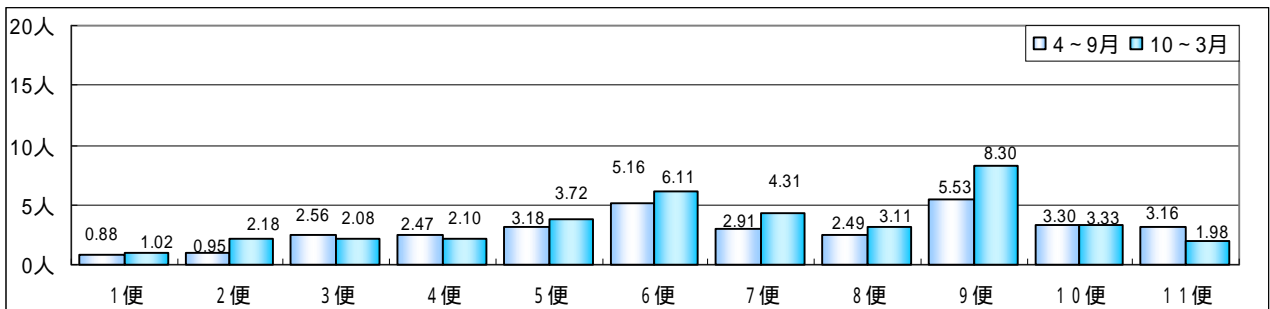


J R当別駅南口行

図 3-13 平日 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

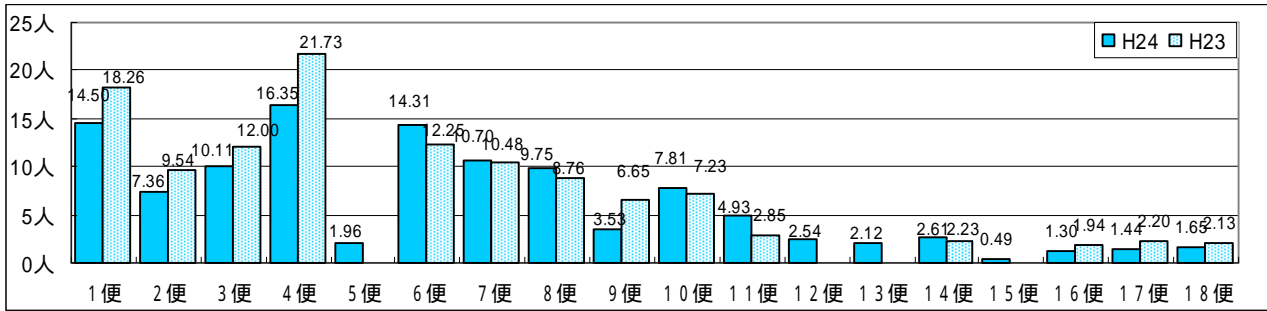


J R太美駅、ロイズふとみ工場行

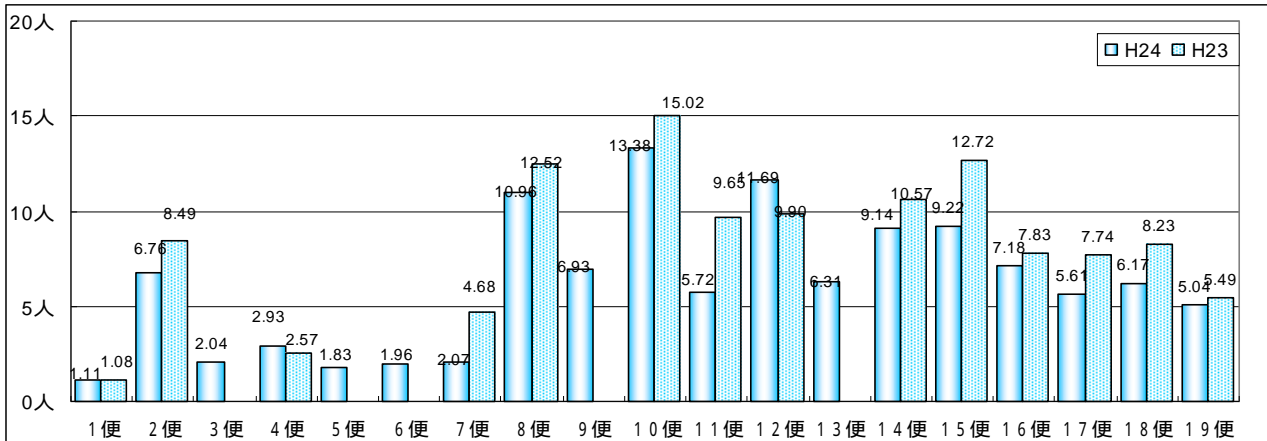


J R当別駅南口行

図 3-14 土日祝日 1 便当たり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

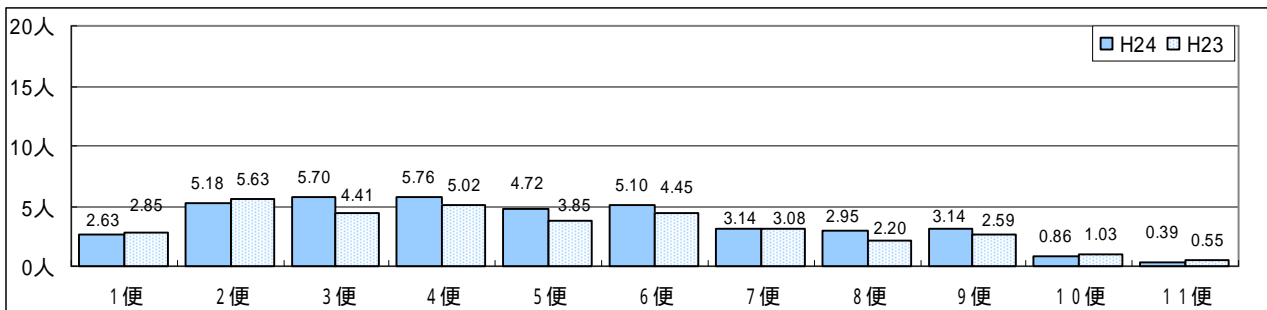


J R太美駅、ロイズふとみ工場、あいの里キャンパス行

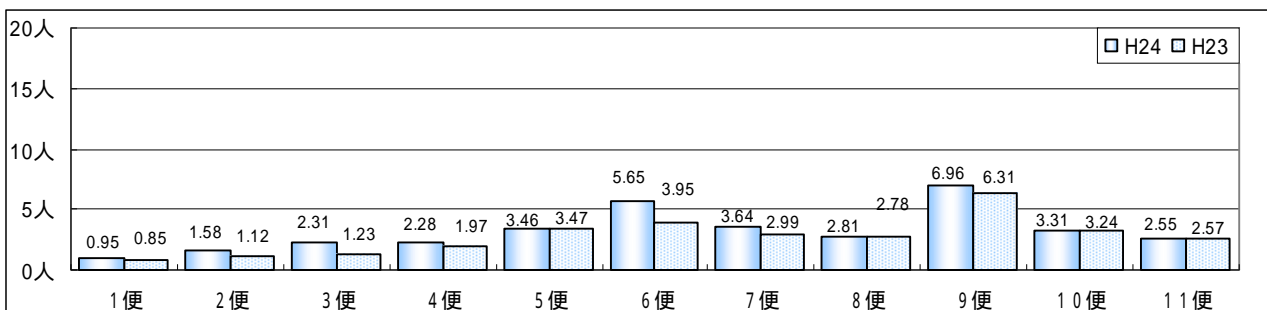


J R当別駅南口行

図 3-15 平日 1 便当たり平均利用者数 (H24 と H23 の比較)



J R太美駅、ロイズふとみ工場行



J R当別駅南口行

図 3-16 土日祝日 1 便当たり平均利用者数 (H24 と H23 の比較)

(6) みどり野・青山線の推移

みどり野・青山線は年々減少しており、平成 24 年度は前年度の利用者数を下回り過去最低を更新した。

長期休暇のある 5 月、8 月、1 月の減少が見受けられないことから、通学者の減少が多いと想定される。

夏季・冬季で大きな変化が見られないことから、自転車からの転換がなく、年間を通して利用する固定客がほとんどと考える。

当別駅南口行は午前中の利用が多く、みどり野・青山行は午後の利用が多い。

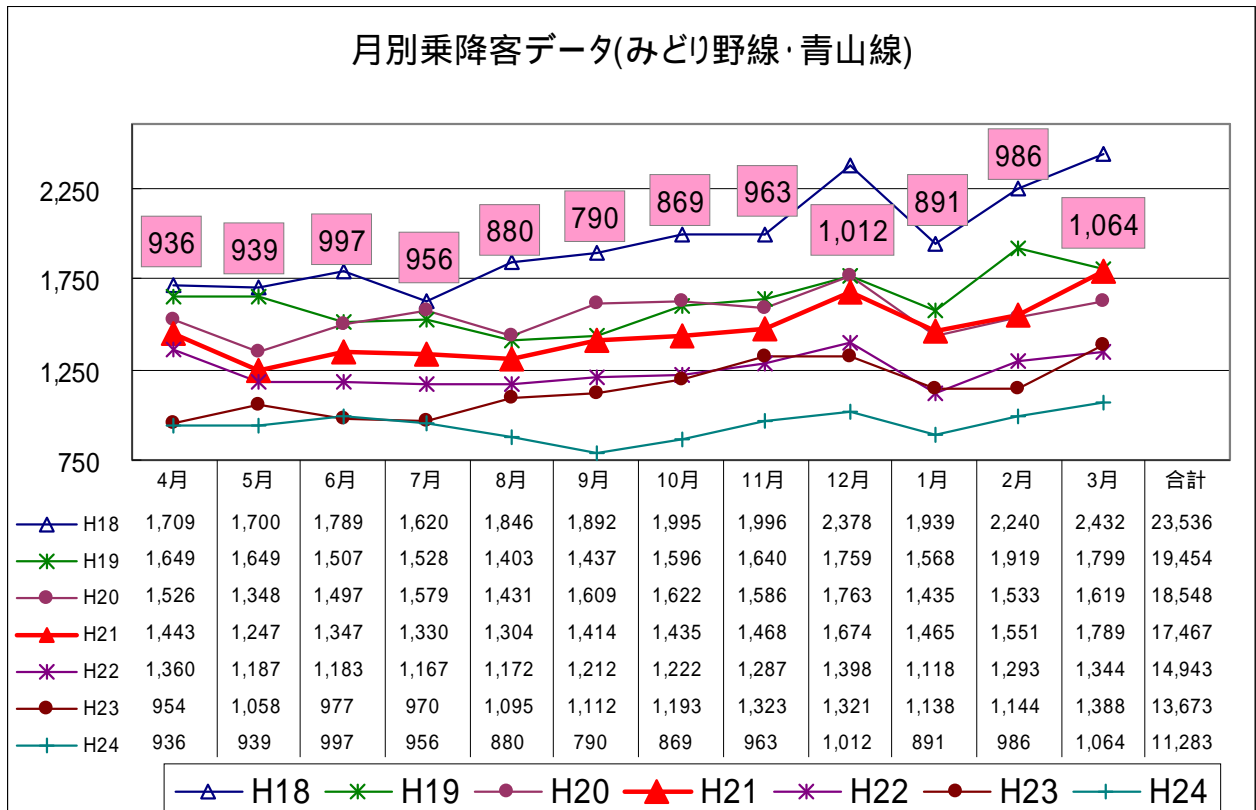
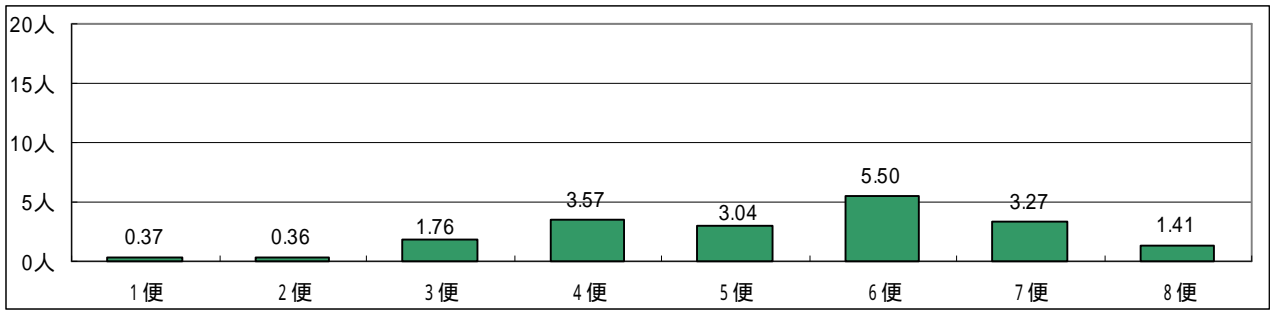
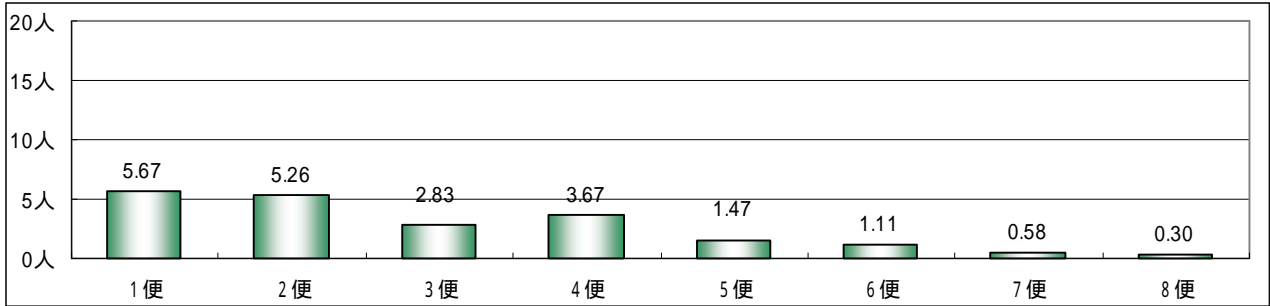


図 3-17 月別利用者推移

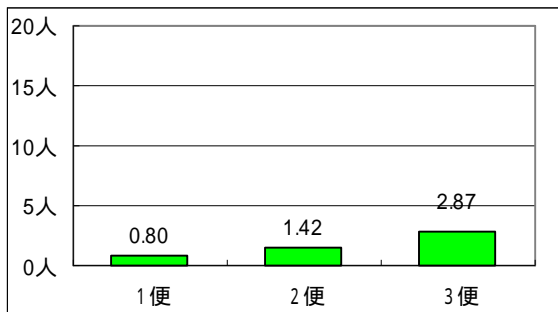


みどり野会館・青山会館行

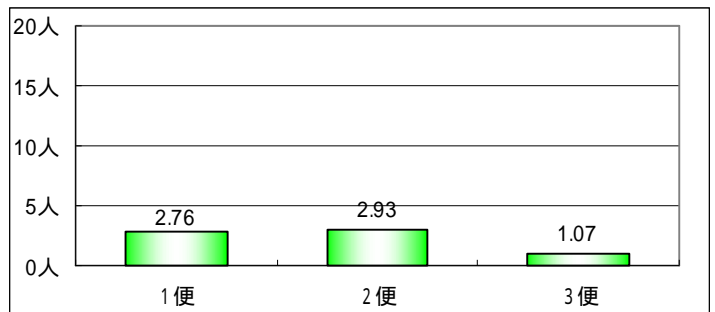


J R当別駅南口行

図 3-18 平日 1 便あたり平均利用者数

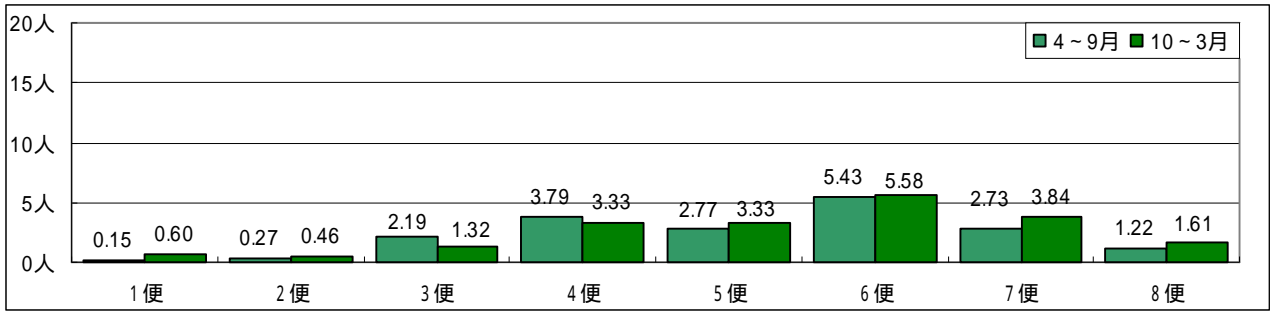


青山会館行

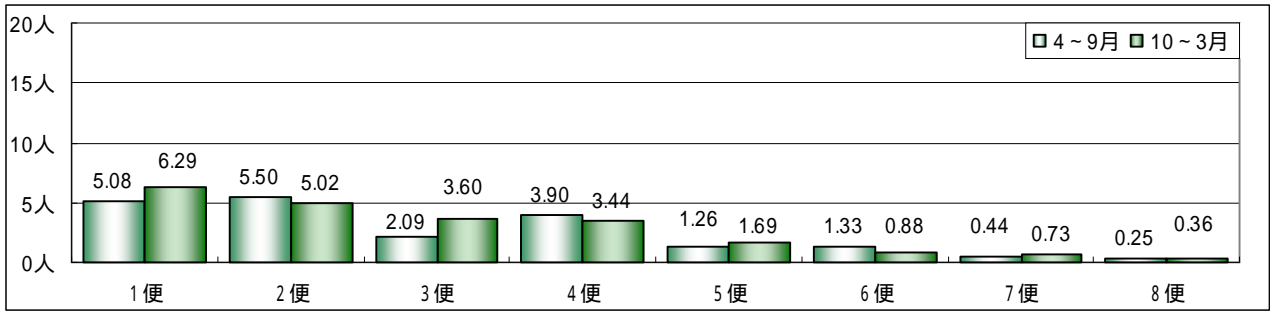


J R当別駅南口行

図 3-19 土日祝日 1 便あたり平均利用者数

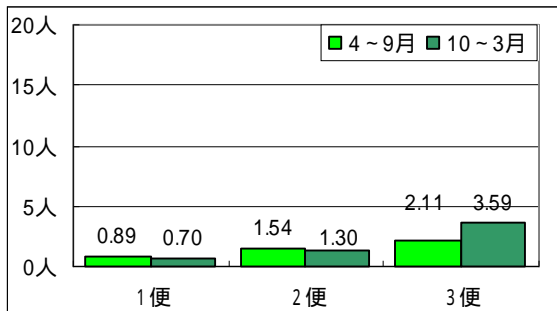


みどり野会館・青山会館行

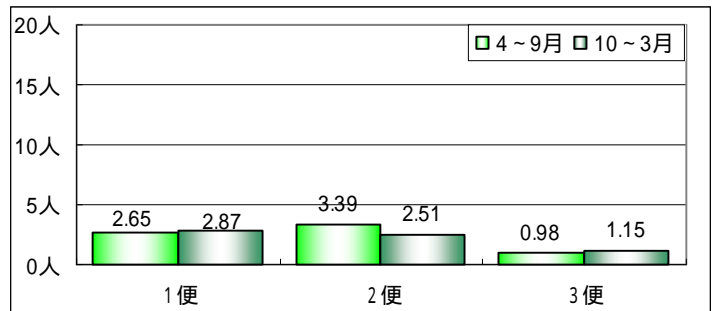


JR当別駅南口行

図3-20 平日1便あたり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

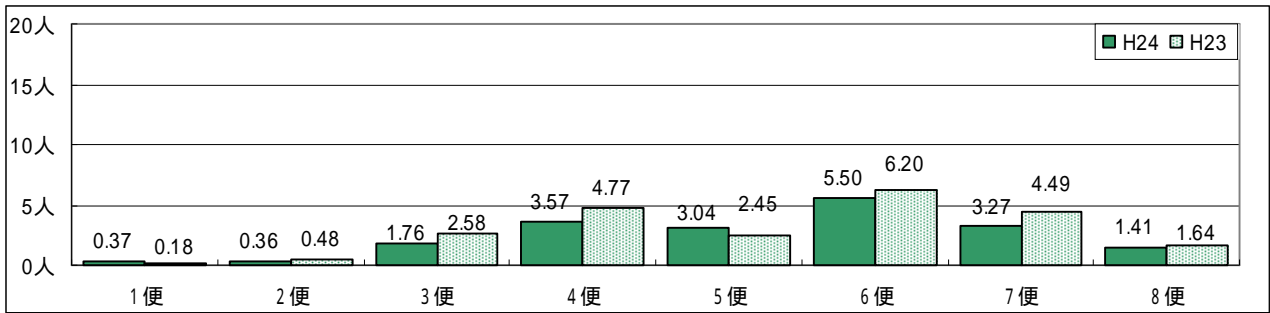


青山会館行

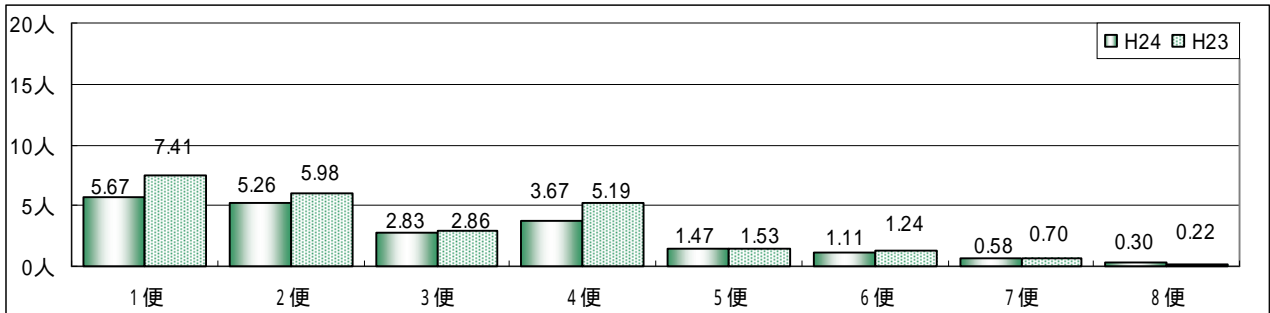


JR当別駅南口行

図3-21 土日祝日1便あたり平均利用者数（夏季と冬季の比較）

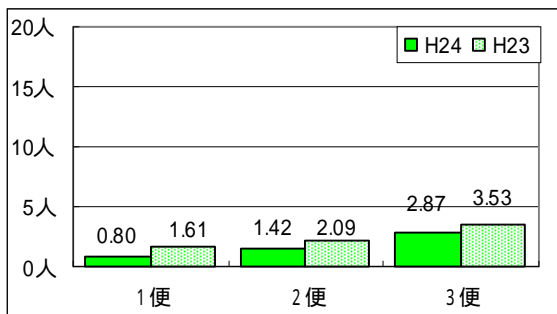


みどり野会館・青山会館行

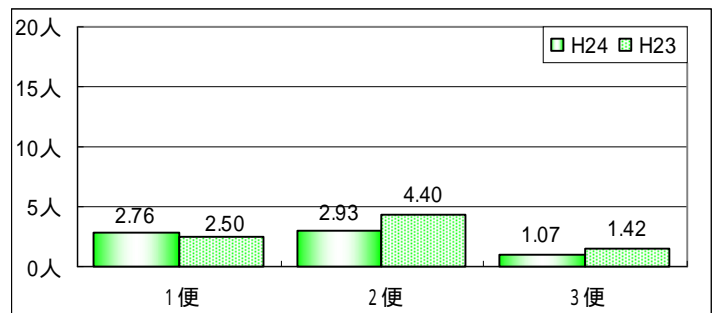


J R 当別駅南口行

図 3-22 平日 1 便当たり平均利用者数 (H24 と H23 の比較)



青山会館行



J R 当別駅南口行

図 3-23 土日祝日 1 便当たり平均利用者数 (H24 と H23 の比較)

4. 運行コストと運行収入

(1) 運行コスト

平成24年度当別町コミュニティバスの運行コストは、年間4,783万円となり、その内訳は約7割が人件費、1割強が車両費、残りをその他で占めている。

また、昨年度まで実施していたバイオディーゼル燃料の回収・精製の事業のふるさと雇用再生特別対策推進事業による委託が終了したため、燃料費が昨年度より300万ほど増額となった。

項目	金額	備考	構成比
人件費	33,483,600円	運転手・事務員人件費	70.00%
車両費	5,285,865円	バス借上料・メンテナンス・保険料	11.05%
燃料費	4,703,211円	軽油・バイオディーゼル燃料	9.83%
バス停費	1,486,610円	停留所借上料・維持管理費等	3.10%
その他諸経費	2,206,804円	運行管理費・定期券作成・清掃費等	4.61%
消費税	662,041円	人件費・保険料を除く	1.38%
支出(運行コスト)計	47,828,131円		
1kmあたり運行コスト	175.6円/km		
1人あたり運行コスト	364.9円/人		

表4-1 平成24年度 当別町コミュニティバス運行コスト

(2) 運行収入等

運行収入は、現金による運賃収入と全路線乗り放題の応援券(定期券)回数券のほか、1日乗車券の販売収入がある。応援券については、町内に6か所の販売所を設け、販売枚数1枚につき100円の手数料を販売所に対して支払い、その差額が応援券収入となっている。

昨年と比較して、回数券販売額は前年を上回ったが、他の収入額については全て昨年を下回っており、収入合計が昨年の実績を下回った。

	運行収入					広告収入	収入合計
	運賃収入	応援券販売額	回数券販売額	一日乗車券販売額	運行収入合計		
H24.4月	269,900円	632,800円	270,000円	2,500円	1,175,200円	0円	1,175,200円
5月	278,800円	166,100円	222,000円	2,000円	668,900円	0円	668,900円
6月	294,200円	90,200円	266,000円	4,000円	654,400円	8,000円	662,400円
7月	296,600円	176,300円	244,000円	2,600円	719,500円	0円	719,500円
8月	319,200円	88,300円	214,000円	4,000円	625,500円	18,000円	643,500円
9月	296,700円	124,900円	190,000円	4,100円	615,700円	18,000円	633,700円
10月	271,800円	548,000円	234,000円	4,800円	1,058,600円	0円	1,058,600円
11月	300,300円	255,800円	288,000円	1,300円	845,400円	0円	845,400円
12月	380,500円	166,800円	302,000円	2,000円	851,300円	0円	851,300円
H25.1月	331,000円	198,000円	274,000円	1,800円	804,800円	0円	804,800円
2月	321,700円	174,800円	262,000円	1,500円	760,000円	72,000円	832,000円
3月	392,400円	248,800円	302,000円	6,700円	949,900円	0円	949,900円
合計	3,753,100円	2,870,800円	3,068,000円	37,300円	9,729,200円	116,000円	9,845,200円

表4-2 収入一覧

販売店名	所在	電話番号	取扱時間
当別町商工会	錦町 1248	23-2447	9:00～17:00(平日のみ)
当別赤れんが6号(ふれあい倉庫)	錦町 294-4	27-6600	9:00～18:00(月曜定休)
当別町社会福祉協議会(高齢者クラブ連合会事務局)	西町 32-2 総合保健福祉センター内	22-2301	9:00～17:00(平日のみ)
(有)下段モータース	樺戸町 1055 番地	23-2630	9:00～18:00
スウェーデンヒルズ管理センター (スウェーデンハウス(株))	スウェーデンヒルズ V2-3-2	26-2348	9:00～18:00
(株)小島商店	太美町 1484	26-2410	8:00～21:00

表 4-3 応援券販売箇所一覧

	一 般				小中学生・高校生・障がい者・介護人						応援券 売上枚数 合計
	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	小計	1ヶ月	3ヶ月	6ヶ月	限定小学生 (500円)	限定中学生 (1,000円)	小計	
	(4,000円)	(10,000円)	(16,000円)		(2,000円)	(5,000円)	(8,000円)				
4月	12枚	4枚	22枚	38枚	10枚	4枚	20枚	0枚	0枚	34枚	72枚
5月	12枚	3枚	3枚	18枚	7枚	1枚	3枚	0枚	0枚	11枚	29枚
6月	7枚	1枚	2枚	10枚	6枚	2枚	0枚	0枚	0枚	8枚	18枚
7月	12枚	1枚	4枚	17枚	4枚	2枚	2枚	21枚	16枚	45枚	62枚
8月	12枚	0枚	0枚	12枚	6枚	2枚	2枚	0枚	5枚	15枚	27枚
9月	7枚	1枚	3枚	11枚	5枚	3枚	2枚	0枚	0枚	10枚	21枚
10月	13枚	2枚	22枚	37枚	8枚	2枚	13枚	0枚	0枚	23枚	60枚
11月	11枚	5枚	6枚	22枚	13枚	4枚	3枚	0枚	0枚	20枚	42枚
12月	9枚	4枚	2枚	15枚	10枚	3枚	2枚	18枚	4枚	37枚	52枚
1月	9枚	3枚	5枚	17枚	10枚	2枚	3枚	3枚	0枚	18枚	35枚
2月	15枚	3枚	3枚	21枚	7枚	2枚	2枚	0枚	0枚	11枚	32枚
3月	13枚	3枚	7枚	23枚	14枚	3枚	2枚	0枚	0枚	19枚	42枚
合計	132枚	30枚	79枚	241枚	100枚	30枚	54枚	42枚	25枚	251枚	492枚

表 4-4 応援券販売枚数一覧

(3) 無料利用者

参加事業者が独自で行っていた輸送サービスを一元化し、「官民共同による運行」を実現させるために、従来のサービスを低下させないよう一定の条件において無料で利用することができる。

北海道医療大学の病院利用者は昨年より若干減少しているが、学生の利用は増加している。これは北海道医療大学で行っている新入生オリエンテーションの中で広報活動を行ったことによるものだと考えられる。

参加事業者	条件	対象路線	対象者	利用方法(無料)
北海道医療大学	当別町金沢及び札幌市あいの里にある当該大学キャンパス	あいの里金沢線	当該付属病院の患者 大学の学生及び教職員	往路：診察券・学生証の提示 復路：無料チケットの交付
スウェーデンハウス	当別町スウェーデンヒルズ内限定の乗降	あいの里金沢線	一般住民	スウェーデンヒルズ内限定の乗降である事を運転手に伝える

表 4-5 従来のサービスによる無料対象者一覧

参加事業者	平成 24 年度 使用枚数	平成 23 年度 使用枚数	増減 (H24 H23)	平成 22 年度 使用枚数	(参考)平成 21 年度 使用枚数
北海道医療大学 (患者)	3,388 枚	3,507 枚	119 枚	3,507 枚	3,734 枚
北海道医療大学 (学生)	24,040 枚	23,065 枚	975 枚	25,343 枚	22,179 枚
合計	27,428 枚	26,572 枚	856 枚	28,850 枚	28,796 枚

表 4-6 無料チケット使用枚数

5. 夏休み冬休み子ども定期券の販売

(1) 概要

昨年に引き続き小中学校向けモビリティ・マネジメント展開の一環として、学校の長期休暇にあわせて、格安の応援券の販売を行った。

利用概要

料金	小学生 500 円、中学生 1,000 円
利用期間	夏季：平成 24 年 7 月 24 日(土)～8 月 16 日(木) 冬季：平成 24 年 12 月 22 日(土)～平成 25 年 1 月 16 日(水)
購入場所	ふれあいバス応援券販売所
利用方法	ふれあいバス応援券と同様

利用実績

夏季	小学生 21 枚、中学生 21 枚、合計 42 枚
冬季	小学生 21 枚、中学生 4 枚、合計 25 枚



図 5-1 夏休み子ども定期券



図 5-2 冬休み子ども定期券

(2) 広報

子ども定期券の販売に当たっては、周知を図るためチラシを作成し配布した。

広報概要

夏季

学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布（7月17日）

冬季

学校を通じて町内全小中学生にチラシを配布（12月17日）



図 5-3 子ども定期券周知用チラシ



6. 当別町コミュニティバス運行事業のまとめ

(1) 路線に関して

市街地循環線

今年度は全体的に利用者が減少し過去最低の利用者数となった。昇順では末広団地、樺戸団地、ゆとろ、とうべつ整形外科が70人以上減少し、降順では、春日団地が120人以上減少した。

また、冬季の大雪の影響で運休が2月21日の12便・遅延1便(30分遅れ)があったが、昨年と比較して運休便数、遅延便数共に大幅に減少した。

あいの里金沢線

当別金沢間(旧金沢線)の利用者数は昨年度より若干の減少はあるものの依然利用者数は高い状況であった。北海道医療大学の学生の利用者増が顕著であり、無料で利用できるバスへの転換が進んだと考えられる。特に歯科内科クリニックの受付時間と大学講義1講目に合わせている北海道医療大学行き1便の利用が一番多い。

当別あいの里間(旧西当別・あいの里線)は昨年度の実績をさらに下回る過去最低の利用者数となった。しかし、10月27日ダイヤ改正以降は徐々に利用者が増えている傾向にあり、3月は昨年より約900人も利用者が増加した。

第1便の利用者が多いのは、スウェーデンヒルズの住民がJR石狩太美駅までの移動手段として利用しているためである。

第4便が多いのは、あいの里キャンパスまで行く最初の便のため、通学・通院利用者が多い。

みどり野・青山線

今年度は過去最低の利用者数となり、約2000人利用者が減少し、9月には利用者数が初めて800人を切った。昨年度までは、土、日、祝日の大きな減少が見受けられなかったが、今年度は約200人近く利用者が減っており、通勤・通学者以外も減少してきていると想定される。

(2) 収入に関して

今年度は事業収入が984万円となり、運行経費に占める事業収入の割合が20.6%となった。昨年度と比較して、収入全体で95.1%と下回った。運賃収入は4月・9月が前年と比べ75%も落ち込んだのに対し、3月は121.9%となった。3月の収入が増えたのは、応援券の売り上げが前年と比べ2倍以上となっていることが大きい。ヒルズ住民の応援者購入者が多いことから4月のダイヤ改正が影響したものと考えられる。

7. 利用促進事業に関するまとめ

(1) モビリティ・マネジメントの実施

利用者数が頭打ちになっている現状で、今後安定した収入を確保する為には新たな利用者の発掘のほか、長期に渡る利用促進策の実施が課題である。小中学生に対する将来を見越したモビリティ・マネジメントは、今後町内のバス交通を活性化させるために、きわめて重要な施策であり、今後も継続して行っていきたい。

小学生を対象とした環境と公共交通に関する授業は、引き続き学校と協議をし、「交通日記」による「事実情報提供法」の実践、「行動プラン法」の実践などの授業に取り組んだ。今後も継続して取り組んでいきたい。

福祉出前講座に「大人向けかしこいクルマの使い方教室」や、「60歳からのかしこいクルマの使い方教室」を組み込んだことにより、高齢者や各種団体への利用促進を展開することができるようになった。今年度は高齢者クラブ等に2回教室を開催した。

住民向けモビリティ・マネジメントとして、「バスまつり」を行い、ふれあいバスへの理解と認知度の向上を図った。また、「バスまつり」の日にはダイヤを平日運行にすることで、バスに乗ってイベントに参加するよう働きかけることができ、バス利用のきっかけづくりに取り組んだ。

今後もモビリティ・マネジメントを継続的に実施し、利用者の増加につなげたい。

(2) バスマつりの開催

ふれあいバスを中心とした公共交通利用を促すため、昨年度に引き続き第4回目を開催した。今年度は、JR学園都市線の電化開業記念として、ミニディーゼル気動車乗車体験やJR新型車両顔出しパネル記念撮影会、学園都市線をイメージしたNゲージの展示など鉄道に関わるものも行った。普段目にすることができない、「サロンバス」や「コンサドーレ号」などのバスを集め試乗会を行ったほか、北海道運輸局の協力をいただき、「バスの乗り方教室」や「バリアフリー教室」も行った。

バスマつりの開催によりバスに興味や親しみをもってもらい、当別ふれあいバスに対する意識の変化を与え、利用者の増加につなげたい。

8 . 今後の課題

市街地循環線については利用者が少なく、さらに減少傾向にあるが、高齢者等にとっては貴重な移動手段となっていることから、デマンド方式を含め、利便性がよく効率の良い運行方式を検討していきたい。

あいの里金沢線の当別あいの里間（旧西当別・あいの里線）はスウェーデンヒルズ住民の利用が多いことから、JRとのアクセスを一番に考えた、ダイヤを構築し、利用者の利便性の向上に努めていきたい。

みどり野・青山線は、10月に全てを青山線に統一したが、通勤・通学の利用者減少や高齢化により、利用者の減少が止まらない。今後、みどり野青山線沿線住民を対象に利用状況や要望などを聴取する機会を設け、地域住民がより利用しやすい運行を行っていきたい。

利用促進事業は、小学校での環境学習や高齢者に対する出前講座などのモビリティ・マネジメントを継続し、公共交通の有用性を訴える中で、当別ふれあいバスの認知度も向上させていきたい。2009年から4回実施した「バスまつり」は実施経費の継続的確保も難しいことから、町内イベントへの出展として経費を抑えながら、継続的にしていきたい。

平成23年度から地域公共交通確保維持改善事業を活用し、補助金の交付を受けて運行を継続しているが、平成21年の14万人をピークに利用者が減少、運行収入も減少傾向となっており、利用者・運行収入を増加させ、補助金に頼らない安定的な運行ができるよう、バスの利便性を向上させることが課題である。